

3. 実践行動学で効果が得られた点を具体的にご記入ください。数値データ等がありましたらご紹介ください。

・昨年度に関しては退学者0名、実践行動学を実施することで学校で学ぶことの意義や明確化が図れ退学防止につながっているかと思えます。
・2021年度入学生は、現時点で退学者0名を維持できている。
・2年前に自身の受け持ったクラス退学防止対象者と比較すると、対象者は0でした。
・検定試験に向け目標が明確化したことで、学習意欲が向上し合格率100%につながった。
・就職、国家試験への関心が高まり早期就職内定、国家試験合格率100%を達成した。
・学習意欲と就職意欲の向上が図れている。就職意欲が高まり、クラス全員が前期9月までに就職が決まるようになっている。昨年、一昨年と前期の9月末までに100%。今年も順調(10人中9人が内定90%)で9月には全員内定する見込み。税理士試験においても昨年5科目合格者が誕生。また簿記論と財務諸表論の2科目合格者(一昨年1名、昨年4名)が安定的に出るようになった。
・学習意欲向上の点で、前年の公務員試験模試のクラス平均を約4~5ポイント上昇させることができた。(授業への取組み、危機感の向上)
・学習意欲の向上が図れている。実践行動学で目標設定を行った際に、検定取得を目標とする学生が多い中、全経簿記検定試験3級と2級については受験者全員が合格。
・感染症対策の影響で4~5月に実践行動学を行えず、6月中旬以降から始めた。そのためか、7月以降から就職活動に積極性が出る学生が多かった。2年後期には就職活動に消極的な学生は例年(通常の実践行動学をしている年)と同じか、より低い割合に減った。このような状況から、実践行動学の効果があったものと思われる。
・実践行動学をやることで就職内定率が向上しているように感じます。まだ全て結果が出ていませんが学生のモチベーションはすごく向上している実感があります。
・クラス全員国家試験合格の意識付けができた。
・就職面接の応答内容の見直し、より具体的にPRできるようになった。
・入学後すぐに実施した。グループワークで話し合いをすることによって緊張が解れたようであった。そこから友人になったりといった人間関係の構築ができた。
・新入生に関しては、仲良くなるきっかけとなります。
・前半はコロナ禍で実践行動学があまりできなかった、就職活動が前半に活発になっていたこともあり効果がどのくらい出たのかははっきりしないが、そんな中でも就職については効果があったのではないかと。家にいる時間が増えた分、将来について考える学生が増え、自分からこの業種に向けて頑張りたいという姿勢がクラス内で見られた。
・目標を修正しながら、目標達成へ向けてどのようにすればよいか?が考えられるようになっている。また内定してからも、よりレベルの高い検定合格へ向けて努力している。
・入学後すぐに授業を行うので、友人作りの場になったり、勉強に対する動機付けになるなど、非常に効果があると思います。
・オンラインでの授業が多いため、実践行動学のような集団で話し合う機会を提供することでコミュニケーションがとれるようになったこと。またそれを学生が喜んでいて、そのことでクラスの輪が広がったことが直接的な効果として挙げられます。
・進級当初に感染対策を行いグループワークを行ったことでクラスメイトとの交流が図れ、クラスの雰囲気は良くなった。結果として対策授業等も良い雰囲気で行えている。
・コロナ禍もありクラスで行ったことで登校できなかった分、人間関係・コミュニケーション力の向上や良好なクラス運営ができた。
・取り組み方が自身の意見を出し、それをグループで共有、まとめ、発表するという流れができているため、自分の意見を持つこと、それを表に出すこと、共有することができ、クラス内でのコミュニケーションを図ることに役立っています。リーダーとしての時間管理や、まとめることの練習にもなっています。
・入学時のオリエンテーションとして活用。コミュニケーションツールとしての効果は高いと思います。
・初めてのグループセッションであったが、円滑なコミュニケーションが図れた。最初に仲良くなることのできたので、その後のクラス運営もほぼ良好であった。
・他の学生の考えを共有することで、さらに「働くこと」への意識が高まりコミュニケーション力の向上につながったと感じる。
・幼い頃の夢や、流行っていたもの、取り組んでいたことを話す中で、初めて話した友人とも共通点を見つけやすくなりコミュニケーションが取れたとの声が多かった。それにより良好なクラス運営につながった。